

名城大学 都市情報学部 令和2年度 卒業論文

# キューバの歩み

学籍番号 150781200

木村勇大

# キューバの概要

首都: ハバナ

人口: 1148万人

面積: 109,884km<sup>2</sup>

言語: スペイン語



# はじめに

## (1) 内容

### (a) 米国とキューバの関係

(ア) バラク・オバマ政権 (2015) : キューバへの制裁緩和  
渡航条件の緩和

(イ) ドナルド・トランプ政権 (2017) : 制裁の復活  
渡航条件の厳格化、送金の制限の厳格化

(ウ) 2020年米大統領選 : ジョー・バイデンの勝利  
→ キューバ制裁緩和への期待

# 第1章 キューバ革命以前の歴史

## (1)第1節 米国の植民地としての独立

### (a)キューバの発見

(ア) 1492年10月:コロンブスがキューバを発見

スペインの植民地化→16世紀半ばから砂糖産業の開始

### (イ)砂糖産業と奴隷

建設・生産のためのインディオの酷使→絶滅

16世紀からアフリカ奴隷の輸入開始

## (b)独立戦争

(ア)1868年:第1次独立戦争

→1878年:スペインとの休戦協定

(イ)1895年:第2次独立戦争

(ウ)1898年4月:米軍艦の爆発により米西戦争勃発

8月:休戦協定

12月:パリ条約

(エ)1899年1月:正式にスペインから独立

米国の軍事占領は継続

The background of the slide is a faded, large-scale image of the Cuban flag. It features three horizontal stripes of blue, white, and blue, with a red triangle at the top left containing a white five-pointed star.

(c)キューバ共和国の発足

(ア)1901年:憲法の公布→プラット修正条項

(イ)1902年5月:正式にキューバ共和国が発足  
米国の軍事占領の終了

## (2) 第2節 米国に支配された経済構造

### (a) 米国による善隣政策

1934年: プラット修正条項の廃止

### (b) 1934年: 新互惠通商条約の調印

米国の輸入関税の引き下げ

### (c) 1934年: 砂糖割当法の導入

米国の砂糖輸出入の調整

### (3) 第3節 改良主義の時代

(a) 1934年: マチャド政権の崩壊

原因: 民主主義勢力の台頭と米国の圧力

(b) 1940年: 新憲法の制定

→ 選挙によりフルヘンシオ・バティスタが当選

(c) 大統領選挙

(ア) 1944年: ラモン・グラウ・サン・マルティンが当選

→ 公約の不履行

(イ) 1952年: クーデターによりバティスタが当選

→ 米国の承認、国民の不信感の高まり



## 第2章 キューバ革命

(1)1節 モンカダ兵営襲撃からシエラ・マエストラまで

(a)1953年7月:モンカダ兵営襲撃

(ア)襲撃の失敗→フィデル・カストロらの収監

1955年5月:フィデルらの釈放

(イ)7月:メキシコ市にカストロが到着

→エルネスト・チェ・ゲバラと会遇

(ウ)1956年1月:ゲリラ戦訓練の開始

6月:メキシコ政府がフィデルらを拘禁→釈放

(b)1956年11月:メキシコからキューバへの出航

12月:キューバに漂着→戦闘の開始

結果:勝利、根拠地の獲得

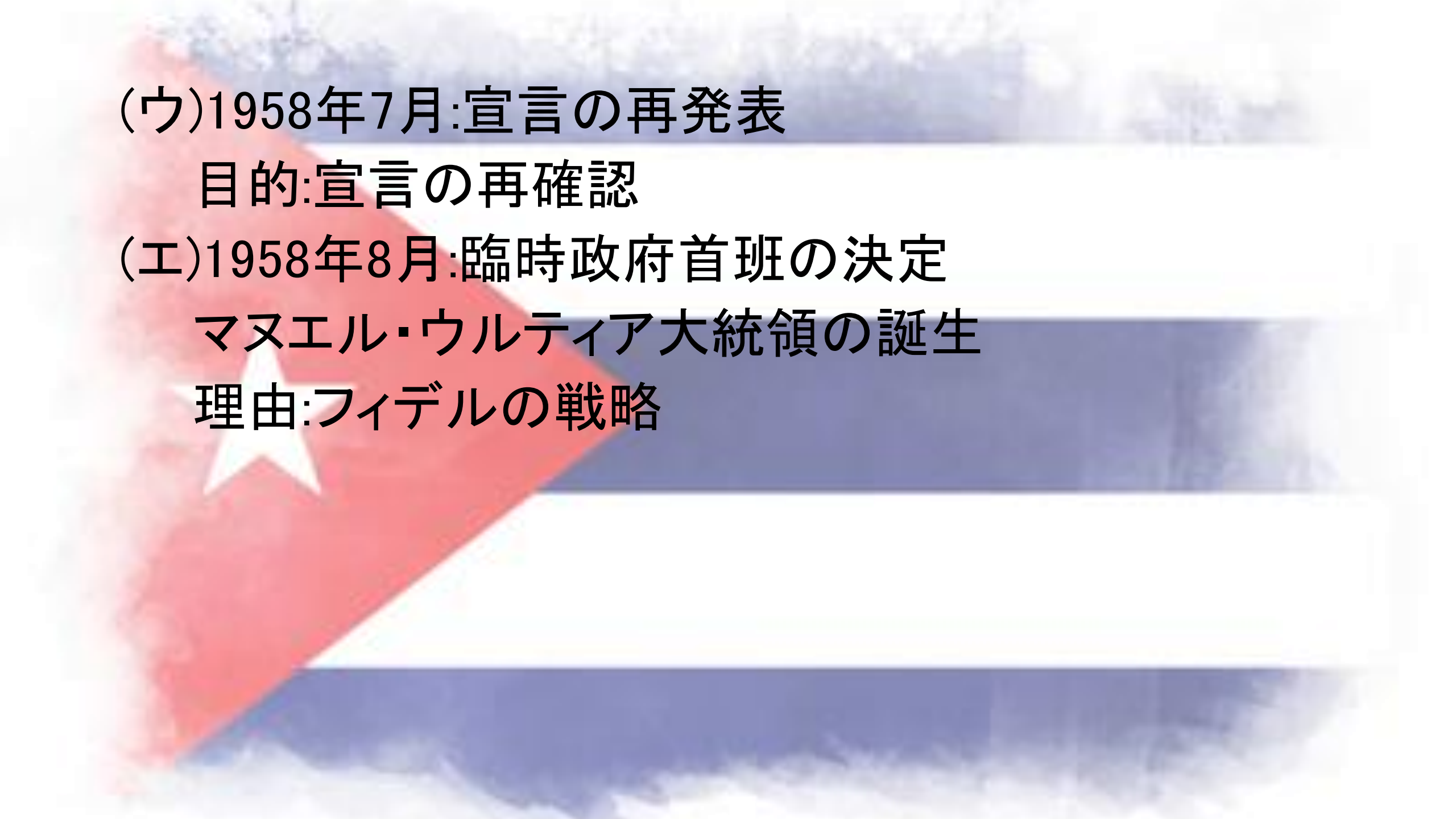
(c)シエラ・マエストラ宣言

(ア)1957年2月:マエストラ山脈で宣言の発表

目的:革命行動計画の掲載

(イ)1957年7月:フィデルが既成政党と接触

→シエラ・マエストラ宣言の署名



(ウ)1958年7月:宣言の再発表

目的:宣言の再確認

(エ)1958年8月:臨時政府首班の決定

マヌエル・ウルティア大統領の誕生

理由:フィデルの戦略

## (2) 2節 バティスタ政権の打倒、革命の達成

### (a) 政府軍への進撃

(ア) 1958年5月: 全国指導部会議の開催

結果: フィデルの反乱軍総司令就任

(イ) 1958年5月: 政府軍のシエラ・マエストラ進撃

8月: 政府軍の敗退

10月: 反乱軍がキューバ中部へ進撃

(b)1959年1月:バティスタが国外へ逃亡

(ア)1月:フィデルが首都ハバナへ入場

臨時革命政府がハバナへ移動

(イ)新政権の発足

ミロ・カルドナが首相に就任

(ウ)1959年2月:フィデルが首相に就任

結果:フィデルによる腐敗の一掃

## (c)カストロの政策

(ア)1959年5月:農業改革法の成立

目的:農地の接收、大地主制の廃止、貧困の解決

(イ)1959年6月:ゲバラが西側諸国を歴訪

目的:援助の打診、関係の構築

(ウ)1959年7月:ウルティアの辞任

理由:大統領のモラル、政治の機能不全

### (3) 3節 キューバ社会主義国の誕生

(a) 1960年2月: アナスタス・ミコヤンソ連副首相のハバナ訪問

(ア) 結果: 貿易協定の決定

開発援助の決定

(イ) 3月: ハバナ湾で停泊船の爆破事件

理由: CIAの作戦

(ウ) 4月: 農業改革法により米大手農場接收

## (b)米系資産の接收の開始

(ア)1960年6月:石油会社がソ連原油の精製を拒否

理由:米国政府の意向を忖度

(イ)7月:キューバ政府が石油会社の経営に介入

結果:米国が砂糖割当制度の停止を実施

(ウ)8月～10月:米系企業・国内大企業の国有化



(c)1961年1月:米国、キューバとの国交断絶

(ア)4月:反革命上陸作戦の発生

キューバ全土の市民施設を空爆

(イ)4月:反革命軍のキューバ上陸

結果:反革命軍の全滅→作戦の失敗

(ウ)社会主義革命宣言

結果:既成政党、保守勢力の離反

ラテンアメリカ諸国との国交断絶

## 第3章 革命後のキューバ

### (1)1節 ミサイル危機

#### (a)ミサイル危機の発生

(ア)1962年5月:ソ連がキューバへ使節団を派遣

目的:ニキータ・フルシチョフの提案の伝達

(イ)キューバは条件付きの受け入れを伝達

結果:ソ連が条件を拒否

## (b) 基地設置の開始

(ア) 1962年7月: 資材・武器、人員の輸送が開始

結果: 米国の偵察飛行が活発化

(イ) 10月: ジョン・F・ケネディ大統領がミサイル基地設置の  
情報をテレビ放送で公開

(ウ) 10月: キューバが米国偵察機2機を撃墜

(エ) 10月: フルシチョフが声明を発表

内容: ミサイル撤去を条件にキューバ不侵攻の約束

## (c)ミサイル危機の終了

(ア)1962年10月:

ケネディがフルシチョフの提案の受け入れを決定

(イ)10月:海上封鎖の解除

→ソ連の武器の搬出

(ウ)フィデルの激怒

米国への5項目の要求を提出→却下

(エ)キューバ・ソ連間の関係冷却

## (2)2節 ソ連化の時代

### (a)社会主義ではなく理想主義

(ア)1962年3月:供給の法律が制定

7月:基本的な生活物資すべてが配給制に変更

### (イ)キューバ風共産主義

サトウキビ刈り取り労働者より賃金の低い政府官僚

### (b)1000万トン計画

(ア)1969年:フィデルが1000万トンの砂糖生産計画を発表

内容:1970年までに砂糖生産を1000万トンにまで

高める砂糖の大増産計画

(イ)目標の1000万トンまで及ばず計画は失敗

結果:ソ連への砂糖の砂糖輸出の停滞、債務の累積

原因:理想社会の非現実的さ

(c)ソ連型経済体制の導入

(ア)1972年:社会主義諸国の経済協力機構に加盟

結果:社会主義諸国との関係が緊密化

(イ)デメリット:砂糖モノカルチャーの強化

社会主義圏からの食糧・工業製品の輸入に依存

### (3)3節 1980年代のキューバ

#### (a)キューバの転換期

##### (ア)人種差別や性差別の撤廃

原因:黒人に対する心のうちの差別やジェンダー問題

##### (イ)経済体制の問題

平等主義体制の限界

##### (ウ)1980年1月:ペルー大使館へ車が突破し侵入

結果:10000人の亡命希望の市民が集結

##### (エ)米国との難民協定が結ばれるまでに10万人が出国

難民:黒人やムラートが約15%、経済難民

## (b)不正の蔓延

(ア)1986年:フィデルが演説で不正を指摘、  
誤りの修正を提案

結果:不正の蔓延や腐敗が露呈

(イ)社会インフラ、労働意欲、医療の現場でも問題が露呈



(c)1989年11月:ベルリンの壁崩壊

(ア)諸外国からの物資が急減

(イ)両ドイツの統一が実現

結果:旧東ドイツがキューバとの政府間協定を  
すべて破棄

(ウ)東欧諸国が対キューバ貿易をほぼ全面的に停止

(エ)ソ連との貿易が縮小

協定額の10~20%に縮小

## 第4章 21世紀のキューバ

### (1)1節 ソ連崩壊と経済改革

#### (a)1991年12月:ソ連解体

##### (ア)米国は経済封鎖を強化

結果:経済回復の遅れが発生

##### (イ)1992年:新憲法の制定

内容:差別の禁止、宗教の自由、芸術表現の自由

##### (ウ)経済制度の変更

経済部門の変更

(b)1993年8月:一般市民の外貨所有が合法化

(ア)9月:個人営業の規制が緩和

目的:リストラの労働者の受け入れ先

(イ)1995年9月:新外国投資法が制定

外資導入が可能に

(ウ)米国が新制裁法を制定

目的:外資のキューバへの進出を阻止

The background of the slide is a faded, semi-transparent image of the Cuban flag, featuring three horizontal stripes of blue, white, and blue, with a red triangle at the top left containing a white five-pointed star.

(c)2000年代

(ア)2004年:ラテンアメリカ諸国との関係が緊密化

(イ)2011年4月:社会経済体制の抜本的転換が決定  
内容:所得格差の黙認、新しい経済体制の導入

## (2)2節 米国との国交回復

(a)2015年7月:米国との外交関係が復活

理由:米国の国際的孤立

(b)米国の制裁緩和措置

内容:送金制限の撤廃、渡航制限の緩和など

目的:人道目的や民主化推進

(c)米国の懸念

ラテンアメリカ諸国の米国離れ

### (3)3節 経済自由化による貧困と格差

#### (a) 貧困や所得格差の拡大

(ア) 貧困層の割合1998年:6.3%

(イ)2000年:20%

#### (b) キューバでの高所得者

非国有部門の労働者、外貨収入がある人々

#### (c) 送金制限の緩和

デメリット:国民間の格差の拡大

## 今後の展望

### (1)2つの対立する意見

(a)バイデン新政権のキューバへの制裁緩和

(ア)バイデンは国交回復時に副大統領を従事

(イ)トランプのキューバ政策を批判

(ウ)キューバへの送金・渡航を緩和すると発言

## (b)強硬な姿勢で制裁を続行

(ア)現在の状況に応じた政策を打ち出すと発言

(イ)オバマ政権時代

政治犯の釈放や表現・集会の自由を要求

→人権などの分野でキューバ側に

改善を求めていく可能性が存在



## (2)キューバへの制裁緩和に賛成

理由:(ア)国交の回復による恩恵→キューバの経済発展

(イ)両国間の緊張緩和

